
それぞれの特性を生かした活動で、老人クラブを元気に

～女性委員会、若手委員会を開催しました～

○県老連女性委員会

5月2日（木）徳島市の県立総合福祉センターにおいて、県老連女性委員会が開催され、各市町村の女性代表者18名が出席しました。



はじめに、県老連から基調報告として、平成25年度設立20周年を迎える「全老連女性委員会」について、老人クラブの組織づくりが進む中で、多数を占める女性会員の存在が注目されるようになった、これまでの経緯等を説明、また本年度記念事業として取り組む「伝えよう！おばあちゃん世代の育児体験記」の募集について、協力を要請しました。

その後協議に移り、女性リーダー研修会の実施内容や、本年度本県で開催される四国老人クラブ大会における「いきいきクラブ体操」の実演者などを決めました。

また、各地区の女性部の活動として、被災地に手づくりのマフラーを贈った、美波町の取り組みを紹介すると、出席の委員からは、週一回のフラダンス教室を開催し、施設訪問を行っている阿波市の事例の他、舞踊による施設訪問を行っている吉野川市の事例、民謡に振付をつけた舞踊教室を行っている勝浦町の事例、10回にわたり行い250名が参加した徳島市の藍染め教室の取り組み、タオルを使った防災ずきんの製作や女性だけのグラウンドゴルフ大会を実施している阿南市の事例など次々と紹介され、それぞれ女性ならではの特色ある活動を展開されている事が伺えました。

なお、委員の任期満了に伴い、委員会の新しい体制を下記のとおり決定しました。

委員長	吉尾さだえ（小松島市）
副委員長	丸野ユキエ（佐那河内村）※再任
〃	岡本キク子（つるぎ町）

○県老連若手委員会

5月8日（水）徳島市の県立総合福祉センターにおいて、県老連若手委員会が開催され、各市町村の若手の代表者19名が出席しました。

県老連からまず、老人クラブの会員の高齢化やクラブの解散による減員など現状を説明しました。また地域社会からの老人クラブへの期待に応えるためにも、若手高齢者を



仲間に迎え入れることの必要性を説明，その方策等として，滋賀県の活動に対する調査報告（「年齢に応じた加入促進策の工夫」や「老人クラブ会員は健康で友達も多いとしたアンケート調査の活用」など），横浜市の「元気で活動しているクラブ事例集」の中から解決策（「ニーズにあったクラブ活動を創設」や「自治会や町内会と連携」など）を紹介しました。

これに対し，委員からは60歳代には現役で仕事をしている人や孫の世話をしている人が多く，入ってくれる人が少ないとの意見がありました。

他の委員からは加入促進の事例が紹介されました。

- ・自治会などの集まりで，知り合いを通じて勧誘している
- ・お世話ができる内にすることが大切と入会を勧めている
- ・村の催事などで，できるだけ声をかけて成果があった
- ・シルバー大学のOBに対し，グラウンドゴルフを通じて勧誘したところ，すぐに10名以上の入会があった

また，加入が進まない理由として，名称が障害になっていることもあげられました。

協議に移り，本年度の取り組みとして，第55回四国老人クラブ大会に対する支援を依頼し，司会進行の他，各種業務をお願いすることになりました。また，若手委員会独自の事業を実施し，若手高齢者の加入につなげたいとして，本年度中の実施に向け進めていくことになりました。

なお，委員の任期満了に伴い，委員会の新しい体制を下記のとおり決定しました。

委員長 藤村 松男（鳴門市）
副委員長 工藤 英夫（吉野川市）
" 片山天四郎（美波町）